

環境科学同窓会通信 第18号

Environmental Science Alumni Newsletter Vol.18

目次/Content

1. 「環境科学院での経験を振り返って」
 亀井 優太郎（神奈川県立産業技術総合研究所）
2. 「寒い海にいざなわれた環境科学院での5年間」
 吉田 和広（佐賀大学農学部 助教）

環境科学院での経験を振り返って

亀井 優太郎（環境物質科学専攻博士後期課程 2014年修了 神奈川県立産業技術総合研究所）

環境物質科学専攻に2009年から5年間在籍し、博士後期課程を修了しました。環境科学院では非常に多くの貴重な体験をさせていただきました。その過程の色々な場面で助けて下さいました小西先生や七分先生にはただ感謝しかありません。

環境科学院で得られた研究成果は、学術的な意義が高いということが理由で、それをもって多くの国内の会議に参加させていただいたり、さらにはGCOEの助成によって海外での会議やエディンバラ大のNeil Robertson先生の下での研究留学をさせていただいたりしました。本当に自分には思ってもみない素晴らしい体験ばかりでした。

しかしながら、業績を稼げばそういった”良い思い”ができるという現実と、散々助けられて達成した業績を抱えながら周囲の反感や嫉妬心をかう構図に悩むこともありました。今では自分でコントロールできない範疇のことに悩む必要はなかったと思いますし、見栄など捨てて素直に自らプレッシャーを解放するように働きかけることが必要だったというふうに考えています。

修了後はいくつかの電池関連の国のプロジェクトに従事してきましたが、様々な研究者と関わっていくなかで自分の能力の低さに打ちのめされ、ゼロからやり直すつもりで勉強させていただいています。電池研究は分子論的な内容から製造～出荷の技術も含んでおり、とても勉強になります。

この記事を書くにあたって当時のことを写真を漁りながら沢山思い出しまして、ジンギスカンパーティや珍萬、研究室での多くのイベント、例えばゼミ旅行、スキー旅行、豊平峡温泉、じゃがいも収穫祭、良い思い出がありすぎて書ききれないと感じました。そこで、自分への免罪符ではないですが、あえて不安・罪悪に感じていた部分について書かせていただきました。このような機会を与えて下さったことに感謝致します。



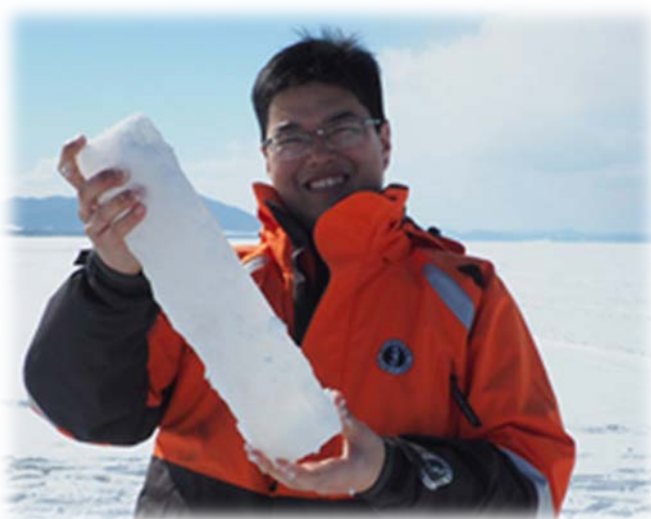
→写真はエディンバラ旧市街から眺める霞がかったエディンバラ城です。フランツカフカの「城」を想起させる我ながら秀逸だと思う一枚です。

アフターコロナに向けて皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

寒い海にいざなわれた環境科学院での5年間

吉田 和広（地球圏科学専攻 大気海洋化学・環境変遷学コース修了 佐賀大学農学部 助教）

私は、2014年から2019年の間、地球圏科学専攻の大気海洋化学・環境変遷学コースで鈴木光次先生のご指導の下、植物プランクトンの光合成の研究を修士・博士で行わせていただきました。私は、環境科学院に入学して間もなく、ロシアの船に40日間乗船させていただき、乗船前はだれも立ち入ったことのない海に行くことができることを楽しみにしておりましたが、乗船後激しく船酔いし、残りの航海日数に絶望していました。しかし、終わってみるとなぜか楽しかった記憶しか残っておらず、なぜか寒くてつらかった海で採取した試料に愛着がわいたものでした。いまでは、船酔いによる一時的記憶力低下が、記憶を美化し、研究の世界へ導いてくれたと思っています。気づいた時には、寒い海を求めて、オーストラリアのタスマニア大学で南極研究に携わらせていただくことになりました。タスマニア大学では鈴木先生とタスマニア大学のAndrew McMinn先生の大変なご尽力で締結されたダブルディグリー協定の下で、北大ータスマニア大双方で博士号を頂けるようなプログラムで、1年半近くの長期にわたってタスマニアで海氷を研究を行う機会に恵まれました。オーストラリアは多民族国家であり、滞在中は十か国以上にわたるいろいろな人に出会いました。環境科学院の5年間は、黒く沈んだ寒い海ばかり研究しましたが、鈴木先生はもちろんのこと、コースの西岡純先生、吉川久幸先生、渡辺豊先生、亀山宗彦先生、平田貴文先生、皆様の熱いご指導を存分に受けさせていただき、また船上やタスマニアで非常にたくさんの暖かい友好関係を築く機会に恵まれました。一人の学生が5年間で、このような多様な経験ができたのは、環境科学院が「環境」を合言葉に多様な先生方や学生が在籍されているからだと思います。現在は、佐賀大学で有明海の研究をしています。寒い海から暖かい海へところは変わっても、5年間で勉強した多様な視点で研究を行えることを楽しんでます。



サロマ湖での海氷コアサンプル



タスマニアの住居の庭先にいた
ワラビー

発行：環境科学同窓会事務局

〒060-0810 札幌市北区北10条西5丁目

北海道大学 大学院地球環境科学研究院内

Fax: 011-706-4867

e-mail: home-coming@ees.hokudai.ac.jp

Issuer: Environmental Science Alumni

Association Office,

Graduate School of Environmental Science,

Hokkaido University

N10 W5, North Ward, Sapporo 060-0810, JAPAN

Fax: 011-706-4867

E-mail: home-coming@ees.hokudai.ac.jp

バックナンバーは同窓会HPでご覧に頂けます。

www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison.html (日本語)

You can visit our back issues page here:

www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison-e.html (English)